

---

# OB 通信

2009 年 No.4

(2009.8)

---

## 第 60 回全国七大学対校陸上競技大会・第 20 回全国七大学対校女子陸上競技大会

- ・男子総合 2 位、女子総合 7 位
- ・柳澤邦彦(1)が円盤投で 44m48 の大会記録、部記録樹立
- ・今泉卓真(4)がハンマー投、砲丸投で二冠、三連覇
- ・高橋理寛(1)が棒高跳で 4m50 を跳び優勝

## 東北学連第一回長距離競技会

- ・斎藤(M1)、島田(M1)、大場(3)が出雲駅伝に東北学連選抜として選出
- 

### ～目次～

・東北学連第一回長距離競技会	2 ページ
・全国七大学対校陸上競技大会	3～17 ページ
・自己記録更新者一覧	18 ページ
・今後の予定	20 ページ
・編集後記	20 ページ

盛夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今号では、主に第 60 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 20 回全国七大学対校女子陸上競技大会、東北学連第一回長距離競技会の結果をお伝えいたします。

### # 東北学連第一回長距離競技会(7/18) 於 仙台市陸上競技場

例年愛島の競技場において行われていた学連ナイターに代わり、今大会の開催となりました。本校からは長距離陣が多数参加しました。

この大会は、出雲駅伝の東北学連選抜選考を兼ねています。本校からは斎藤純(M1)、島田健作(M1)、大場直樹(3)の 3 選手が選出されました。雨の中のレースとなりましたが、自己ベストを更新した選手が 4 選手おり、熱いレースが展開されました。

#### ■男子 5000m

組	氏名(学年)	記録	順位
1 組	中道 尚史(4)	17'49"92	14 着
	工藤 佑馬(2)	18'01"96	16 着
2 組	渡辺 貴哉(M1)	16'52"39	17 着
3 組	林 亮輔(M1)	<b>15'38"38</b>	2 着
	柴田 拓哉(M1)	15'55"08	9 着
	鈴木 雄輔(4)	<b>15'57"54</b>	10 着
	阿部 史滉(1)	15'59"14	11 着
	早坂 達也(3)	16'06"79	12 着
	尾形 洋平(2)	<b>16'09"38</b>	13 着
4 組	大場 直樹(3)	14'55"38	4 着
	斎藤 純(M1)	15'06"86	6 着
	島田 健作(M1)	<b>15'08"46</b>	7 着
	小林 和也(M2)	15'41"46	14 着
	平 聖也(4)	15'50"26	16 着
	川口 亮平(M2)	16'22"06	22 着

#### ■女子 5000m

組	氏名(学年)	記録	順位
1 組	永井 瑞希(M1)	18'07"75	2 着
	大淵 真波(M1)	19'49"31	11 着
	小高 真依(1)	22'28"12	12 着

## #第60回全国七大学対校陸上競技大会

兼 第20回全国七大学対校女子陸上競技大会 (7/25~26) 於 国立競技場

### ～主将挨拶～

今回の七大戦は東北大学の初の連覇がかかった大会となりました。結果は総合2位と残念な結果に終わってしまいましたが、強者大阪大学の前にこの順位は誇れるものだと思います。また今回2位を死守できたのは、三秀会の方々の日ごろのサポートや当日の応援、差し入れなどのおかげでもあります。ありがとうございました。

さて、私は主将になってから「陸上競技を楽しむ」ことを目標に掲げて活動してきました。これは部員の自発的な行動を促す意味も込めての目標でした。そして、この目標を通して多くの部員に団体競技としての陸上競技の醍醐味を感じてほしいと思っていました。個人競技だけでなく団体競技としての楽しさを感じることができればもっと陸上競技を好きになれると思ったからです。この目標は自分では達成できたかはわかりません。他人の心の中は覗けません。しかし、実感としては最後の七大戦でこの目標が達成されたのではないかなと思っています。主将になってから、いや大学を通じてですね、自分も含めてあんなにまで多くの部員が試合を楽しんでいる大会は見たことはありません。七大戦というお祭りを一番楽しんだと自負している今の4年生が最高学年にいたからかもしれません。このようにチームとして七大戦を楽しむことはできました。しかし、結果は総合2位です。今年の2位がいい結果なのはわかっていますが、やはり競技者として優勝を目指すのは必然でしょう。3年生以下にはこの結果を重く受け止めて、来年へのモチベーションにしてもらいたいと思います。

この執筆と明日(8月2日)の七大戦祝勝会を持って主将の仕事は終わりとなります。1年間、精一杯ではなかったとしても部員を引っ張り、そして支えるリーダーとして頑張ってきました。いい主将かどうかはみなさんや部員が判断するとしても、個人的には満足のいく1年間でした。今でも主将として臨んだ最高の七大戦に戻りたいと何度も思いますが、それはできません。前を見て、この経験を糧に今後の人生を歩んでいきたいと思っています。拙い主将でしたが、1年間無事に勤め上げることができたのはみなさんのおかげです、本当にありがとうございました。今後とも東北大学学友会陸上競技部に変わらぬ声援をよろしくお願いします。

東北大学学友会陸上競技部 主将 今泉卓真

## 第 60 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1	大阪大学	119 点	(T : 59 点(1) F : 60 点(1))
2	東北大学	72 点	(T : 21 点(5) F : 51 点(2))
3	京都大学	69 点	(T : 50 点(2) F : 19 点(3))
4	名古屋大学	53.5 点	(T : 46.5 点(3) F : 7 点(6))
5	東京大学	36 点	(T : 22 点(4) F : 14 点(4))
6	北海道大学	27 点	(T : 14 点(7) F : 13 点(5))
7	九州大学	22.5 点	(T : 18.5 点(6) F : 4 点(7))

## 第 20 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1	大阪大学	22.5 点	(T : 15 点(1) F : 7.5 点(2))
2	北海道大学	19 点	(T : 8 点(3) F : 11 点(1))
3	名古屋大学	12 点	(T : 8 点(3) F : 4 点(4))
4	東京大学	11 点	(T : 6 点(5) F : 5 点(3))
5	京都大学	10 点	(T : 10 点(2) F : 0 点(6))
6	九州大学	3 点	(T : 3 点(6) F : 0 点(6))
7	東北大学	2.5 点	(T : 0 点(7) F : 2.5 点(5))

### トラック

#### 男子 100m 予選

- 1-5 5 着 富樫 宏朗(3) 11"65(-2.9)  
2-2 7 着 伊藤 亮輔(1) 11"69(-1.5)  
3-2 6 着 畠山 真慈(1) 11"83(-1.5)

3 年生の富樫と 1 年生の伊藤、畠山で臨んだ。向かい風でのレースとなり、タイムよりも勝負が優先された。

富樫はスタートで若干出遅れたが、まずまずの出だしであった。その後トップに差をつけられるが、中盤は持ちこたえる。最後は少し走りが乱れ、5 着となった。

伊藤はケガの影響か、スタートにキレがなかった。最初から大きく置いていかれ苦しい展開。終盤なんとか食らいつこうとしたが届かず 7 着に沈んだ。

畠山はスタートこそ良かったがうまく加速できず少し遅れた。後半は離されなかった

が、差を縮めることはできなかった。

100m は 2 年連続決勝にコマを進めることができなかった。来年はショートスプリントで得点して優勝につなげたい。

#### 女子 100m 予選

- 1-3 5 着 岡村 菜花(1) 14"12(-2.3)  
2-7 6 着 房内まどか(1) 14"63(-2.9)

1 年生 2 人という若い編成。

1 組目の岡村はスタートから離される。加速局面でさらに離され、その後差を縮めることはできなかった。

2 組目の房内もスタートで出遅れる。その後も徐々に差をつけられ 6 着となった。

今回はスタートに大きな課題を残した。来年はこの部分を修正し、決勝進出を狙いたいところ。

### 男子 200m 予選

1-3 5着 遠藤 智之(3) 24"01(-1.4)

2-6 棄権 鈴木 一輝(2)

3-3 4着 畠山 真慈(1) 23"47(-1.7)

1 組目の遠藤は反応良くスタートしたが、前半から少しずつ遅れ、カーブを抜けてからも向かい風に阻まれスピードに乗れずゴール。400m との掛け持ちは少々辛かったか。

2 組目の鈴木一輝は走幅跳と国立の硬いトラックの影響で脚をつり、棄権した。

3 組目の畠山は素晴らしいスタートをきめ、前半から飛ばして前の選手を 100m で捕えた。後半は両隣の選手と競り、なんとか競り勝った。しかし、決勝には進めなかった。

### 男子 400m 予選

1-6 3着 高林 佑輔(2) 50"67

2-8 4着 望月 明人(4) 51"73

3-6 5着 遠藤 智之(3) 51"86

七大初正選手となった望月と、去年のマイル優勝メンバー遠藤、高林が出場した。

1 組目の高林はスタートから上手く飛び出し外側の選手を早くもバックストレートで捕えた。200m から中央レーンの 2 選手に並ばれるが、固くならずについていき後半も落ちなかった。

望月はスムーズに加速できず、バックストレートでもスピードに乗れなかった。200m で内側の選手に並ばれるもそこから粘り、前と離れずに自己ベストでフィニッシュ。

遠藤は前半からスピードに乗れず 200m で内側の選手に捕まる。第 4 コーナー出口からは頭を振る苦しい走りとなり、持ち前の粘りが発揮できずに 5 着となった。

高林がタイムで拾われ決勝に進出した。

### 男子 400m 決勝

8 位 高林 佑輔(2) 53"06

今季の高林は学連春季こそまずまずだったが、ケガ等がありインカレでは悔いの残る結果。宮城県選では自己ベストを出して復活をアピール。好調のまま決勝に進んできた。

序盤は強風の影響かスピードに乗れなかった。バックでは追い風に乗りスピードを上げるも前との差は徐々に広がった。200~300m で差を縮めるも、ラストで足が止まり苦しくなる。2レーンの選手にも抜き返され 8 位に沈んだ。

来年以降はこの経験を生かしてぜひ得点をもぎ取ってほしい。



写真：高林の決勝での走り

### 女子 400m 予選

1-7 5着 土肥加奈世(2) 64"02

2-5 3着 岡村 菜花(1) 64"29

1 組目の土肥はスタートで少し出遅れたものの、大きなストライドで先頭を引っ張る良い展開となる。200m 付近で内側の 2 選手に並ばれるもストライドは変わらず先頭との差は広がらない。しかし 3 着争いに惜しくも敗れ 5 着となった。

2 組目の岡村は低い姿勢から飛び出し上手くスピードに乗った。水壕あたりから少し

スピードが落ちたが、後半粘り余裕の3着で決勝進出。

土肥もタイムで拾われ、2人とも決勝に残るという素晴らしい結果になった。

#### 女子 400m 決勝

7位 岡村 菜花(1) 64"88

8位 土肥加奈世(2) 66"15

スタート直後、土肥の動きは大きく、逆に岡村は小さい感じがした。しかしバックストレートでは土肥の動きが鈍り、岡村はスピードに乗ってきた。その後中央の選手に抜かれ後方に下がった。岡村は大きくスピードを落とすことはなかったが、徐々に離され7位でゴール。土肥は最後苦しくなり、8位。

女子のロングスプリントは北日本インカレ以降徐々に力をつけてきた。決勝でタイムが落ちることから、2本走れる体力をつけることが望まれる。

#### 男子 800m 予選

1-6 1着 本間 亮太(3) 1'58"08

2-4 6着 土方 貴道(1) 2'03"63

3-6 5着 辻川 優祐(1) 1'59"39

今年かなり元気のある800m陣。決勝での上位入賞が期待された。

1組目の本間はバックストレートで先頭に立ちレースを引っ張る。1周目を58秒で通過しバックストレートで2番手の阪大と集団を抜け出す。後続が失速し、ホームでは完全に2人となり、手を広げて余裕の1着。

2組目の土方は出だしで3、4番手につける。200mあたりでペースを落とし1周目は63秒。バックストレートから前に出て600mで一度先頭に立つ積極的な展開。しかし最後のスパート合戦につけず6着でゴール。

3組目はスタート直後から集団でレースが進んだ。1周目は60秒で通過、辻川は2、3番手の好位置でレースを展開。しかしバックストレートで5番手まで下がる。集団が団子状態でホームに入り、辻川はラストスパートの伸びが足りず5着となった。

中距離PCである本間ただ一人が決勝に進出した。

#### 男子 800m 決勝

4位 本間 亮太(3) 1'57"42

北大戦で56秒台を出した本間は、自己ベストでの入賞もしくは優勝が期待された。予選は余裕で通過しており、勢いはあった。

スタートから勢いよく飛び出し、バックストレートに出たところで先頭に立つ。1周目をやや抑え気味の59秒で通過。2周目も先頭を引っ張るが、ラスト200mで後続3人がスパート、抜かれてしまう。離されまいと食らいつきコーナー出口でスパートしたが、3位と100分の1秒差で4位になった。

表彰台を狙える位置での4位と、かなり悔しい結果になった。100分の1秒で勝負が決まる厳しさを痛感させられた試合であった。

#### 女子 800m 決勝

9位 荒木佳那子(2) 2'44"76

10位 須藤 彰子(4) 2'50"12

一斉スタートで行われた。スタートから先頭はハイペース、東北大の2人はついていけない。1周目、荒木は75秒、須藤は80秒で通過。この時点で前と大きく差が開き2周目も前の集団に絡めずにゴール。

先頭の選手とは20~30秒くらいの差があり、力の差をまざまざと見せつけられた。

### 男子 1500m 決勝

- 14位 早坂 達也(3) 4'11"52  
15位 大野 良輔(1) 4'13"23  
17位 尾形 洋平(2) 4'14"03

1周目を先頭が62秒で通過。東北大の3人は後方につけ、先頭から約20mの差。大野が2周目で中位につけるが、それでも先頭とは50m以上差がついた。3周目も先頭のペースは変わらず、3人ともスパートをかけたが差は縮まらなかった。結局1回も勝負に絡むことができずにレースを終えた。

入賞には4分1桁台が必要である。来年は勝負に絡む積極的なレースを期待したい。

### 女子 3000m 決勝

- 9位 佐藤 仁美(2) 11'53"20  
12位 千葉絵里子(3) 12'05"75

千葉と、及川まりやがケガで欠場のため補欠の佐藤が出場した。

2人はスタートから集団中ほどにつける。千葉は800mで先頭集団に入るも1000m過ぎから徐々に順位を下げた。佐藤は千葉の後方を走っていたが、残り800mで千葉を捕らえた。結局2人は得点争いに絡むことなくレースを終えた。

### 男子 5000m 決勝

- 12位 大場 直樹(3) 16'17"79  
14位 平 聖也(4) 16'23"24  
17位 鈴木 雄輔(4) 16'38"65

平、大場、そして一週間前の学連長距離競技会で自身初の15分台を出した鈴木雄輔が出場した。

集団はスタートから縦長になり、東北大の3人は中盤かやや後方でレースを進める。2

周目で大場は徐々に前へ行き、7番手。平は集団中盤につけたが、鈴木は集団から離された。大場は7人の先頭集団でレースを進め、平は徐々に後退し孤立して11番手に。鈴木はついていけず1人となった。3000mでついに大場も離され、加えて上位6人がペースアップ。残念ながらラストまで得点争いには加われずに終わった。

3人とも暑さや風に苦しめられ、本来の力を発揮できなかった。来年はしっかり対策することが必要である。

### 男子 110mH 予選

- 1-6 2着 一ノ倉 聖(3) 15"68(-1.3)  
2-5 2着 岩崎 辰哉(3) 15"68(-2.2)  
3-2 4着 渋谷 知暉(1) 16"01(-1.7)

昨年3位の岩崎、6位入賞の一ノ倉、ルーキーの渋谷が出場した。

1組目の一ノ倉は序盤から先頭付近でレースを進める。中盤でやや離されそうになるが、ハードリングと走りは共に乱れずに食らいついた。最後は余裕を見せて2着でフィニッシュ。

2組目の岩崎は良いスタートをきり中盤まで先頭を走る。後半は東大の選手に先頭を取られるが、そのまま流して2着でゴール。

3組目の渋谷は前半、スピードに乗った走り鋭いハードリングで先頭に食らいつく。しかし後半に伸びず4着に沈んだ。

岩崎、一ノ倉が順当に決勝にコマを進めた。

### 男子 110mH 決勝

- 4位 岩崎 辰哉(3) 15"48(-3.7)  
5位 一ノ倉 聖(3) 15"80

今年ケガ続きであまり練習を積めていない岩崎はどこまでいけるか、また県選から上

り調子の一ノ倉はどこまで記録を伸ばせるかが注目された。

スタートは横一線。岩崎は3台目まで先頭集団でレースを進めた。中盤から少しずつ遅れ始め、なんとか追いつこうとしたものの、詰め切れずに4位。

一ノ倉は前半やや遅れ気味だったが、軽快なピッチで前を追った。第2集団は先頭からやや後方にいたものの、9台目付近で隣の選手を捕え、ラストで振り切り5位でゴール。

風が非常に強い中でのレースだった。評価すべき点は、一ノ倉が決勝で15秒台で走れたこと、岩崎がたとえケガ明けでもしっかり得点したことであろう。岩崎にとって4位は不本意かもしれないが、これを糧にして14秒台を再びたたき出してほしい。

### 男子 400mH 予選

1-2 6着 藤井 翼(1) 62"11

2-7 途中棄権 一ノ倉 聖(3)

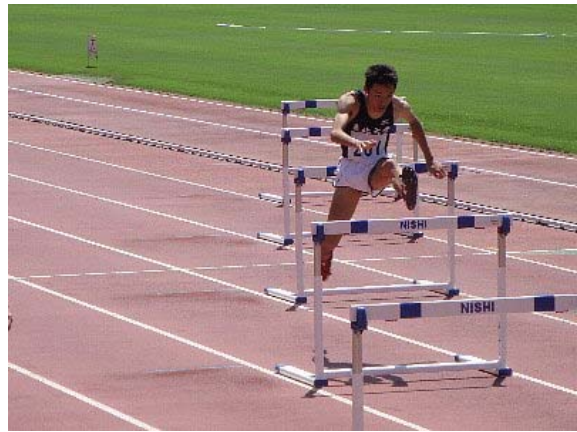
3-4 2着 柴田 智弘(4) 56"07

1組目の藤井はスタートから勢いよく飛び出し1台目を越えた。2台目は足が合わず失速。持ち直して5台目まで行ったが、切り替えてタイムロスし徐々に離される。最後は向かい風が強くなるとかゴールしたという感じであった。

2組目の一ノ倉は途中でハードルに足を引っ掛けてバランスを崩し、そのまま外のレーンに飛び出して途中棄権となった。

3組目は大本命の柴田。1台目はスムーズに越えバックストレートの追い風に乗って軽快に飛ばす。最後は東大が追い上げたが、柴田は前を行っていた阪大の選手を抜き、2着でゴール。

今回も柴田のみが決勝進出となった。力を残しての予選通過で、決勝に期待がかかった。



写真：余裕で決勝に進出した柴田

### 男子 400mH 決勝

2位 柴田 智弘(4) 54"06

今季の柴田はここまで振るわなかった。インカレでも決勝に進めず、タイムも昨年の記録に近づけずにいた。宮城県選でようやく55秒を出して復活の兆しを見せていた。

柴田は序盤から積極的に飛ばし、トップを走る。先頭のまま250m付近まで来る。コーナー出口で先頭を争っていた他の選手が転倒、柴田と北大村上との一騎打ちに。ラストまで柴田は先頭を走っていたが、北大が追い上げ、最後はトルソー勝負。優勝は柴田のレーンナンバーが表示されたが、後に訂正され1000分の2秒差で惜しくも2位となった。

当初、優勝は柴田のレーンナンバー「3」が点灯しただけに、動揺は計り知れなかった。しかし、大舞台で自己ベストを出すところはさすがである。

#### ☆選手から一言

今年のテーマはファンタジーでした。なかなか、ファンタジーなレースが出来たと思います。なので、夢のようにぼんやりとしかレースのことは覚えていません。ただ、楽しかった事だけははっきりと覚えています。本当に楽しかった。



僕にとって七大会はこれで最後で、全力全開のレースもしました。ですが、これからは陸上は続けますし、七大会のレースは全力であっても限界ではありません。これからは自分の限界を目指して走り続けたいと思います。

柴田 智弘

### 男子 3000mSC 決勝

5位 尾形 翔平(1) 9'40"61

7位 阿部 史滉(1) 9'51"60

期待のルーキーコンビが出場した。

1周目は北大が1人飛び出し、阿部、尾形は集団中盤に位置する。1000mで尾形が先頭に立ち、集団は縦長に。半分くらいで先頭集団が絞られ、東北大の二人も必死に食らいつく。2000m過ぎに名大がスパートをかけ、阿部は離された。尾形は対応しそのまま食らいつく。最後は上位4人が抜け出し尾形は5位。阿部は惜しくも7位となった。

今回は1年生2人という若い編成で臨み、1人は得点を稼ぐ活躍をみせた。伸びる要素はまだあり、これからの楽しみである。



写真：水壕にて(渡辺実さん提供)

### 男子 4×100mR 決勝

5位 43"16

鈴木一輝(2)-富樫(3)-畠山(1)-高林(2)

今季、学部生のみで出した記録はあまり良くなかった。鈴木が脚をつけることが心配され、不安の中でのスタートだった。

鈴木は脚をつけることなく、無難にスタートし先頭争いをしながら2走の富樫へ。富樫は内側に迫られるも抜かせず3走畠山に渡す。少々詰まり気味のパスだったため畠山はスピードに乗りきれずに後方へ。4走高林へのパスも詰まったが、東大がバトンミスをして一気に5位に。高林はそのまま逃げ切った。

ケガ気味の選手を補うような補欠の存在が無い。今回は層の薄さが浮き彫りとなった。

### 女子 4×100mR 決勝

6位 54"00

飛内(4)-岡村(1)-菊地(4)-房内(1)

4年生と1年生の編成で臨んだ。

東北大は終始他大学においていかれる展開。バトンはしっかり受け渡したものの、走力の差は歴然、5位と1.5秒差の6位だった。

来年は個々の走力アップを図り、得点争いに絡むレースを期待したい。

### 男子 4×400mR 決勝

3位 3'23"42

高林(2) – 遠藤(3) – 望月(4) – 柴田(4)

昨年は劇的な勝利を収めたマイル。昨年のエース田中の穴をどう埋めるかがカギであった。

1走の高林は前半から飛ばした。一つ外側の阪大を追い、バックストレートを良いリズムで走りぬけた。200~300mで更にペースを

上げホームへ。ここで阪大がバトンを飛ばしてしまい、レースから脱落。2走遠藤とのバトンパスはタイミングが合わず6位に後退。

遠藤は必死に前を追う展開に。第3・4コーナーで1人抜いたが、ホームで抜き返され、3走望月へバトンをつないだ。

望月は400mで自己ベストを出した走りそのままに、前との差を徐々に詰めた。最後まで前の選手を捕えられなかったが、差を詰めて4走柴田にバトンを渡した。

柴田は50mで早くも前の北大を抜き去る積極的展開。その勢いでバックストレートで2チームを捕え、250mで一気に抜き去った。そのまま後ろとの差を広げ3位でゴール。

全員がしっかり自分の仕事をして、下馬評を覆す活躍を見せた。中でも4年生は素晴らしい走りを見せた。



写真：リレーメンバー

くような跳躍が目立ち、距離を伸ばせず、結局1本目の記録が最高となった。鈴木はベスト8に残り、5本目で7m09をマーク。九大の選手が6本目に鈴木を抜き4位に浮上。鈴木は6本目に記録を伸ばせず5位となった。

鈴木は宮城県選での捻挫を押しての出場であったが、追風参考ながら7m台をマーク。ケガをしていてもしっかり跳ぶところは評価できる。来年もハイレベルな戦いを見せてほしい。



写真：鈴木の跳躍の瞬間(渡辺実さん提供)

## フィールド

### 男子走幅跳決勝

5位 鈴木 一輝(2) 7m09(+2.6)  
落合 裕規(4) 6m15(+0.4)  
安井 令(1) 5m97(+1.9)

1本目、3人とも納得のいく跳躍ができなかった。安井は脚を痛め、2本目を無理して跳んだが、スピードが出ず5m97、ここで試技をやめた。落合は踏切板に足を合わせに行

### 女子走幅跳決勝

3位 菊地亜加里(4) 5m17(+1.8)  
飛内 茜(4) 4m27(+2.7)

飛内は2回目に4m27を跳んだが、残念ながらベスト8に残ることはできなかった。

菊地は強い追い風に乗れ、3本目まで全て5m台。3回目に5m17をマークし3位につける。その後は記録を伸ばせず、順位も変わらず、そのまま3位入賞。女子唯一の表彰台

となった。

女子の大黒柱がしっかり点を稼いだ。女子主将の意地を見せてもらった試合であった。

### 男子三段跳決勝

- 5位 瀧澤 翔太(3) 14m30(+3.7)  
8位 岩崎 辰哉(3) 13m80(-0.7)  
渋谷 知暉(1) 13m30(+1.9)

昨年 3 位で今年の宮城県選優勝の瀧澤の他、岩崎、渋谷が出場した。

渋谷は 1 回目ファールの後、2 回目に 13m30 をマーク。ベスト 8 には残れなかった。

岩崎は 13m80 を跳んでなんとかベスト 8 にコマを進めた。その後は記録を伸ばせず、8 位で終了となった。

瀧澤は 1 回目から 14m を跳んできた。3 回目では追風参考ながら 14m30 を跳び、この時点で 5 番手。6 回目に 3 回目に並ぶ記録を跳んだが、結局 5 位となった。

この種目は阪大が表彰台を独占した。昨年の東北大は 2 種目で表彰台を独占したことが記憶によみがえるが、他大学が独占すると悔しい思いである。

### 男子走高跳決勝

- 7位 渋谷 知暉(1) 1m80  
藤井 翼(1) 記録なし  
斎藤 達(2) 棄権

渋谷は 175 からスタートし、1 回目でクリア。180 は 3 回目でクリアしたが、185 を跳ぶことができず、惜しくも 7 位となった。

藤井は 170 から始めたが、全て失敗。記録なし。

この種目は得点を取れずに終わった。

### 女子走高跳決勝

- 4位 菊地 亜加里(4) 1m40  
土肥 可奈世(2) 棄権

菊地は 135 から試技を開始し、1 回目でクリア。140 も 1 回目でクリア。順調そうに見えたが、続く 143 を 3 回失敗。阪大の選手とともに 4 位となり、0.5 点を稼いだ。

女子は結局菊地のみが得点を獲得した。菊地は 4 年生のため、来年からは他の選手が点数を稼がなければならない。

### 男子棒高跳決勝

- 1位 高橋 理寛(1) 4m50  
6位 藤井 翼(1) 3m60  
白井 孝明(4) NM

去年のチャンピオン白井と、自己ベストで白井を上回る 1 年生高橋と藤井が出場した。

藤井は 3m40 から試技を開始し、この高さを 3 回目でクリア。続いて 3m60 も 3 回目でクリアし自己ベストを大幅に更新。そして 6 位に入賞し、得点を獲得した。

高橋は 4m30 から試技を開始。この高さを楽々クリアし 4m40 をパス。4m50 も 1 回でクリアした。しかし次の高さを跳ぶことができず 4m50 で試技を終えた。

白井は 4m50 から開始した。本来なら楽にクリアできる高さだが、足がつったために跳躍できなかった。2 回目はなんとか走ることはできたが、スピードが足りずに失敗。3 本目は完全に失敗し、記録なしに終わった。

結果は高橋が優勝し 2 年連続東北大が優勝した。白井の入賞ないし優勝は確実視されていただけに非常に悔やまれる結果となった。高橋は向こう 3 年間は表彰台の頂点を明け渡すことなく 4 連覇を目指してほしい。



写真：国立の空に舞う高橋

☆選手から一言

七大会当日は気温が高く、風も待てば追い風に変わるといいコンディションであったので、今シーズン使えていなかったポールも曲げることができました。得点を取れたことは勿論、先輩方の姿を見て団体としての陸上を再認識するという大きな収穫のあった大会となりました。来年の七大会でも棒高跳びは東北大の得点源となるよう、ポール陣全員で技術の向上に努めていきたいと思えます。応援してくださりありがとうございます。

高橋 理寛

**男子やり投決勝**

2位	杉本 和志(2)	62m33
	落合 裕規(4)	47m86
	稲田 和明(1)	40m61

昨年大会記録で優勝した杉本と、落合、稲田が出場した。

稲田は2回目に40m61を記録したが、まったく勝負に絡むことはできずに終わった。

落合は2回目に47m86を出したが、決勝に進むには49m以上が必要で、残念ながら決勝に進めなかった。

杉本は3回目まで59m12で60m台にあと一步。昨年優勝の意地を見せ5回目に

62m33をマーク。1位に浮上する。6回目は記録を伸ばせず試技を終えた。しかし6回目に北大の選手が杉本の記録を1cm上回る62m34を出し、杉本は2位となった。

優勝こそできなかったが、再びハイレベルな争いを見せた。今回入賞した選手のほとんどが4年生であるため、来年からは杉本の独壇場になる可能性がある。



写真：表彰式の杉本

☆選手から一言

昨年の七大会では、やり投で優勝することができましたが、今年は皆の期待にこたえられず、2位という結果となってしまいました。しかし、記録的にはシーズンベストで、部の仲間やOBの方々からのたくさんの声援のおかげだと思っています。特にすぐ後ろで応援を下さったOBの方々にはとても感謝しています。来年は必ず優勝して、総合得点にも貢献したいと思っていますので、今後とも宜しくお願いします。

杉本 和志

**男子砲丸投決勝**

1位	今泉 卓真(4)	12m85
2位	柳澤 邦彦(1)	12m26
3位	菊地 晃一(5)	12m01

3連覇を狙う今泉とそれを脅かす柳澤、そしてダークホース菊地が出場した。

菊地は 1 本目からスムーズな投擲で一気に飛ばす。柳澤も足をしっかり使ったいい投擲で 3 本目までは 11m60 台。今泉も 12m を投げ、全員順当にベスト 8 に残る。

4 本目、菊地が 12m01 をマーク。柳澤も負けず 12m26 を投げる。今泉もそれに続き 12m23 を投げるもこの時点では柳澤が 1 位。

5 本目は皆記録を伸ばせず勝負は 6 本目に突入。菊地、柳澤が記録を伸ばせず終わり、最後に今泉が会心の投擲で 12m85 をマーク。逆転で 3 連覇をもぎ取った。

東北大は圧倒的火力により表彰台を独占。他大学が付け入る隙は全くなかった。

### 女子砲丸投決勝

#### 6 位 菊地 亜加里(4) 7m39

2 年前の京都ではこの種目で表彰台に上がった菊地。再び表彰台を目指した。

菊地は 2 回目に 7m13 を投げ、ベスト 8 に残った。4 回目に 1cm 伸ばし、更に 6 回目で大幅に伸ばして 7m39 で試技を終えた。

結果は 6 位、砲丸投げで再び表彰台に上がることはできなかった。

### 男子円盤投決勝

#### 1 位 柳澤邦彦(1) 44m48 NGR・部記録

#### 2 位 今泉卓真(4) 38m42

#### 4 位 菊地晃一(5) 35m12

3 連覇を目指す今泉と、現部記録保持者にして大会記録を上回る記録を持つ超大型新人の柳澤、そして昨年 2 位の菊地が出場した。

今泉は 1 本目から 35m を投げ、2 本目に 36m 台を出し好調さを見せた。菊地は 3 本目に 32m 台を出した。柳澤は 1 本目から大会記録を上回る。この時点で勝負は決まったようなもので、どこまで記録を伸ばすかに注

目が集まった。

今泉は 4 本目にこの日最高の 38m42 を記録、2 位となった。菊地は 4、5 本目とファールし、6 本目で 35m12 をマーク。しかし阪大の選手が 35m13 と 1cm リードしたため、4 位となった。柳澤は 4 本目の 44m48 が最高となり、部記録を更に伸ばした。

今泉が勝てば 3 種目 3 連覇であったが、柳澤がそれを阻止した。今後 3 年間この男から目が離せない。



写真：大会記録の投擲

☆選手から一言

まず初めに、OB、OG、部員の皆さん、暑い中応援ありがとうございました。チームの力、応援の力を感じる大会となりました。投げる時の気持ちの高鳴りがいつも以上で、とっても楽しかったです。追い風でシーズンベストが出たので結果にも満足しています。僕はまだ一年生で技術面でも身体面でもまだまだ改善の余地はたくさんあります。毎日の練習で一步一步成長し来年は今年以上の投げができるように頑張ります。

柳澤 邦彦

### 男子ハンマー投決勝

#### 1 位 今泉 卓真(4) 52m35

#### 7 位 柳澤 邦彦(1) 34m34

#### 稲田 和明(1) 18m87

前回優勝かつ現部記録保持者の今泉の他、柳澤、稲田の3人が出場した。

今泉は最初から飛ばし、52m 台を出して他を寄せ付けなかった。4 本目に 52m35 を投げて、これが最高となる。結局 6 本中 5 本が 50m 台と、圧倒的な力の差で完勝。ただし、最古の大会記録と言われるハンマー投げの記録は塗り替えることはできなかった。

柳澤はハンマー初心者ながらも 30m 台を出し、しっかりとベスト 8 に残ってきた。4 本目、5 本目と記録を伸ばしたが、6 位に一步及ばず 7 位に沈んだ。

稲田は思うようにハンマーを飛ばせず、終始ハンマーに振り回されていた。

この種目では今泉が 3 連覇を成し遂げた。来年は今泉が抜けた穴を如何にするかが課題となってくる。

#### ☆選手から一言

前日開催と言うことで次の日に繋げるため、順位はもちろんのこと記録も狙っての競技となりました。大井の暑さと共にテンショ

ンも上昇し、ベストを狙えそうな感触がありました。結果は 52m 台と一步及ばなかったにしても 2 位に約 7m の差をつけて優勝することができました。前日開催で寂しさはありましたが、その分多くの声援を受けることができました。そして最後の七大戦を楽しむことができました。ありがとうございました。

*P.S.* 大会記録保持者の三浦さん（北大卒）とお会いできてとても嬉しかったです。

今泉 卓真



写真：今泉の投擲の瞬間

#### 応援に来て下さった先輩方(敬称略)

宮崎鉄男 高橋孝志 川野部修 稲見文雄 勝又孝文 柴田清 金尾義則 渡辺実  
遠藤久則 大岩章夫 佐藤源之 慎山正春 真山隆徳 秋山真一郎 橋本伸二 三浦得雄  
小林徳彦 岩松正紀 彦坂幸毅 三本木千秋 中村大 古澤賢一郎 伊藤和繁 和泉俊介  
菅原靖宏 武康彦 吉田真人 上杉亜希子 吉沢協平 上杉直史 北野和寿 根本昇  
前野深 荒川真木子 武田一彦 古田弘毅 石原武雄 斉藤健太 佐藤道由 五十嵐哲  
角田康宏 金子秀明 佐々木隆 橋本拓也 藤木康代 植木洋輔 坂本健 瀬崎雅則  
橘明德 渡辺美和 渡部佑一 奥津多加志 森田清爾 工藤亜樹子 小平圭一 飛田雄一  
富山浩太 畑山峻 細川淳一 渡邊翔太郎 工藤岳太 鈴木義教 松本洋 山内英樹  
依田典朗 青柳光裕 岩城篤史 川口亮平 小林和也 原田貴正 中島大 中嶋啓太  
八木洋光 相澤直人 池田絵里 宇田侑平 大淵真波 甲斐田俊 佐藤圭祐 島田健作  
田中裕志 寺川亮 中野一誠 永井瑞希 橋本耕太郎 脇坂美穂子 渡辺貴哉



## 累計得点ランキング※

※リレー得点は除く

- 1位 今泉卓真 65点 第57回～第60回(2006-2009)  
種目:砲丸投、円盤投、ハンマー投
- 2位 藤田文夫 53点 第18回～第21回(1967-1970)  
種目:100m、200m、400m
- 3位 吉川雄朗 44点 第47回～第52回(1996-2001)  
種目:砲丸投、円盤投、ハンマー投、槍投

## パート別累計最高得点

- 短距離 藤田文夫 53点 第18回～第21回(1967-1970)  
種目:100m、200m、400m
- 中距離 植木浜一 41点 第24回～第27回(1973-1976)  
種目:800m、1500m
- 長距離 橘 明德 32点 第52回～第55回(2001-2004)  
種目:1500m、5000m
- 跳躍 石川嘉夫 43点 第14回～第17回(1963-1966)  
種目:走高跳、走幅跳、棒高跳、三段跳
- 投擲 今泉卓真 65点 第57回～第60回(2006-2009)  
種目:砲丸投、円盤投、ハンマー投

## 一大会個人総合得点ランキング

- 1位 藤田文夫 26点 第20回(1969)  
種目:100m、200m、400m、400mR、1600mR
- 2位 藤澤鐘吾 24点 第58回(2007)  
種目:走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、  
400mR、1600mR(7種目入賞:最多種目入賞記録)
- 3位 久保友明 19点 第43回(1992)  
種目:200m、400m、400mR、1600mR



## 三連覇記録者

1. 鎌田勝夫	棒高跳	第11回～第13回(1960-1962)
2. 藤田文夫	200m	第18回～第20回(1967-1969)
3. 大丸明正	400mH	第22回～第24回(1971-1973)
4. 遠藤久則	走高跳	第28回～第30回(1977-1979)
5. 佐藤友彦	400mH	第39回～第41回(1988-1990)
6. 吉川雄朗	ハンマー投	第50回～第52回(1999-2001)
7. 橘 明德	5000m	第53回～第55回(2002-2004)
8. 今泉卓真	ハンマー投	第58回～第60回(2007-2009)
	砲丸投	第58回～第60回(2007-2009)

## 四連覇記録者

1. 植木浜一	1500m	第24回～第27回(1973-1976)
2. 後藤和也	110mH	第32回～第35回(1981-1984)
3. 彦坂幸毅	走高跳	第37回～第40回(1986-1989)
4. 葛西陽介	ハンマー投	第46回～第49回(1995-1998)

## 七大戦記録保持者

種目	1500m	3' 52" 23	第55回(2004)
	橘 明德		
種目	5000m	14' 38" 98	第55回(2004)
	橘 明德		
種目	槍投	63.06 m	第59回(2008)
	杉本和志		
種目	円盤投	44.48 m	第60回(2009)
	柳澤邦彦		

## #自己記録更新者一覧(7/6~7/26)

### ・400m

高林 佑輔(2)	50"54	(宮城県選手権)
望月 明人(4)	51"73	(七大戦)
土肥 加奈世(2)	64"02	( " )

### ・110mH

一ノ倉 聖(3)	15"59(+0.6)	(宮城県選手権)
----------	-------------	----------

### ・400mH

柴田 智弘(4)	54"06	(七大戦)
----------	-------	-------

### ・3000mSC

阿部 史滉(1)	9'51"60	(七大戦)
----------	---------	-------

### ・5000m

林 亮輔(M1)	15'38"38	(学連長距離記録会)
鈴木 雄輔(4)	15'57"54	( " )
尾形 洋平(2)	16'09"38	( " )
島田 健作(M1)	15'08"46	( " )

### ・走幅跳び

菊地 亜加里(4)	5m17(+1.8)	(七大戦)
-----------	------------	-------

### ・棒高跳び

藤井 翼(1)	3m60	(七大戦)
---------	------	-------

### ・砲丸投げ

今泉 卓真(4)	12m85	(七大戦)
菊地 晃一(5)	12m01	(七大戦)

### ・ハンマー投げ

柳澤 邦彦(1)	34m34	(七大戦)
----------	-------	-------

## #今後の予定

9月4日~6日	天皇賜杯 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会(国立競技場)
9月19日~21日	国公立22大学対校陸上競技大会(千葉県総合スポーツセンター)
9月22日	全日本大学駅伝予選会 全日本女子大学駅伝予選会(仙台市陸上競技場)
10月3日~4日	東北学生陸上競技選手権大会(女川)
10月10日	OB戦

## ※注意※

今年から全日予選会及び全女予選会は白鷹町での駅伝方式ではなく、仙台市陸上競技場(宮城野原)でのタイムレース方式となります。競技開始は9時からとなっておりますので、皆様の応援を宜しくお願い致します。

## #編集後記

まず初めに、七大戦から1カ月ほどが経過してからのOB通信発行となり、楽しみにしていた先輩方には申し訳なく思っています。学業の方と川内の印刷機の関係によりこのような運びとなりました。しかし時間があつた分、No.2、No.3よりは時間を割くことができたのでその2つよりはいいものができたのではないかと思います。

さて、七大戦も終わりひと段落しました。競技の感想はまず置いておいて、暑かった!!というのがありました。死ぬほど暑かったです。しかし仙台に帰ってくると連日のどんよりした天気。全国的にもそのような感じでしたが、なぜ七大戦のときだけ、しかもピンポイントで東京が晴れるのでしょうか。去年もその日だけ猛暑になり、仙台らしくない天気だったのを覚えています。これはきっと七大戦パワーのせいでしょう。七大戦には何かがある、そう感じずにはいられない大会でした。

現副務がOB通信を書くのもこれが最後です(たぶん…)。この編集後記まで読んでくれる方は少ないかと思いますが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

文責 副務 新沼 啓 千葉 絵里子